

第2回葛飾区都市計画マスタープラン地域別勉強会

次 第

日時：平成21年9月6日(日)
午後1時30分から4時30分
場所：ウィメンズパル

1．開会

2．あいさつ

3．第1回勉強会のまとめ

4．第2回勉強会の進め方、ワークショップのルール

～地域別に分かれます～

(立石・四つ木地域班、南綾瀬・お花茶屋・堀切地域班は、2階の視聴覚室に移動します)

5．地域において守り育てる点、改善すべき点について

～休憩～

6．地域の将来像、基本方針について

7．まちづくりを進めるうえで取り組むべき重要なテーマについて

～全体で集まります～

8．地域別報告

9．第3回勉強会について

10．閉会

(参考) 各地域での意見概要

水元地域

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ 第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。	
地球温暖化への対応	
少子高齢化による人口減少時代の到来	<ul style="list-style-type: none">・東水元1丁目は駐車場が多かったが、相続により住宅地化が進んでいる。40坪の宅地が2つに分割され、20坪程度の住宅が分譲されている。このような住宅が将来どうなるのだろうか。子供が戻ってきて2世帯住宅もつけれない。永く住むことができる住宅づくりが必要と考えている。
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none">・水元地域の大きな課題は洪水対策である。中川堤防の強化が必要であり、河川の氾濫から住民を守ることが先決である。・幹線道路の整備が進んでおらず、歩行者や自転車の通行が危険である。中川を渡る橋の整備も遅れている。・幅員4m未満の生活道路が多く、消防活動に問題がある。防災性の向上をテーマに検討したい。・岩槻街道など、歩行者が歩きにくい道路がある。電柱が多いことも原因と考えられる。安全なみちづくりについての検討を行いたい。岩槻街道は南側から整備が進んでいるが、北側の整備は予定があるのか。区画整理が進んでいるところは基盤が整備されるが、その他の地区は道路整備が進まない。幹線道路の整備を進めてほしい。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none">・市街地の質を向上させるための事業や有効な手法が必要。・区画整理をやっていないところがまだ多い。今のうちに実施しておかないと建物が多くなり道路や公園などの基盤整備が難しくなると思う。幹線道路の整備も進んでおらず、しっかりとした基盤整備を行っていくことを検討していきたい。・南水元では区画整理を進めているが、周辺の幹線道路の整備が進んでいない。補助138号線など、中川を渡る橋の整備を進めることが必要である。現在は橋が1つ(飯塚橋)であり迂回しなければならない。東京理科大学や周辺のマンションなどの整備と合わせて、周辺の道路整備が必要と考える。金町から水元方面への道路整備を進めてほしい。それによりバス路線も安全になると思う。
その他	<p style="text-align: center;"><テーマ：みどり></p> <ul style="list-style-type: none">・水元地域は公園や農地もあり、みどり豊かな環境がある。しかし、農地は相続により宅地化されるところもある。農業を続けていける仕組みや、離農した際の農家の生活再建なども考えて、現在の環境を守っていくことが必要と考える。・農地などのみどりの保全が大切である。生産性の高い農地の維持や相続の際に農地として残す工夫(区民農園など) 仮に宅地化される場合はゆとりのある住宅地づくりなど、みどりを活かしたまちづくりをテーマとしたい。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。

地球温暖化への対応	
少子高齢化による人口減少時代の到来	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後のまちづくりに向けて、子供たちにとって良いまちになるようにしてほしい。 ・高齢者や要介護者にも優しいまちづくりをして欲しい。(介護センターまでの公共交通の利便性向上、介護センターの設置、身近な商店の設置、ゲートボールが出来るような公園の設置)
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・キャサリン台風によって当地域は浸水し、大きな被害を受けた経緯がある。水害を初めとする災害時に、安全に避難できる場所を確保して欲しい。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・工場跡地に東京理科大が移転することや周りに住宅が出来ることを活かしながら、既存の住宅地と調和を図ったまちづくりを進めてもらいたい。 ・金町駅の再開発にあわせ、金町駅の使い勝手の利便性を向上させて欲しい。
その他	<p style="text-align: center;"><テーマ：みどり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿の工場跡地の開発は、緑豊かな計画にして欲しい。 ・水元公園の緑を拡張して欲しい。 <p style="text-align: center;"><テーマ：公共交通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水元公園周辺では公共交通不便地域がある。コミュニティーバスを運行するなど、公共交通の充実を図って欲しい。 ・新金貨物線はほとんど運行されていない。廃止できないのであれば、南北方向の交通網(LRT、BRT)として活用できないか。 ・介護センターへの足としてコミュニティーバスの充実を図って欲しい。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。	
地球温暖化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・出席者から「低炭素型まちづくりというものは地域でどう取り組んだらいいのかわからない」という疑問を投げられた。例示として「下水熱の利用や雨水を地域で貯留して利用する」といった取り組みを紹介ところ、興味を持たれて、そうしたことは是非地域の中で勉強していきたいという意見があった。 ・自動車に頼り過ぎてきた生活が定着しているため、もっと公共交通の利用促進や歩くことが楽しく便利であるような街づくりを考えたい。
少子高齢化による人口減少時代の到来	
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高砂1丁目地区と青砥駅前を結ぶ新橋(歩専橋)の建設を正式に要請(H21.7.7)した。これは奥戸運動公園などへのアクセスの向上ばかりでなく、災害時などの避難路確保の面からも重要と考えている。 ・東柴又小の北側を東西に結んでいる都市計画道路は江戸川方面に向かう地域の避難路に指定されているが、全線の整備が終わっていない。今年も9月に避難訓練を行なうが、地元で整備の見通しなど説明する必要がある。 ・環7の高砂1丁目交差点は事故が多い。奥戸運動公園や今後の新橋整備のことも考えた対策を講じる必要がある。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地内に公園が少ないので潤いに欠けている。防災面でも問題がある。 ・細田地区は道路の整備面では整ってきたが、交通安全面や防犯面での不安を指摘する声がある。また、小規模ではあるが農地も一部にあるので緑の存在を生かした環境整備にもスポットを当てて欲しい。 ・この地域は、古くから街並みが形成されてきたところなので、歴史的な資源を活かした住環境づくりを進めるべきである。 ・新中川に架かる3橋の架け替えや改修が決まり、かつこれから整備していかなくてはならない道路がある。これら道路整備に伴って出てくる沿道環境の問題などを街づくりの中で考えていきたい。
その他	<p style="text-align: center;"><テーマ 都市型観光拠点づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴又商店会の活性化に関して、商店会内部で勉強会を開いている。かつての「寅さんブーム」に比べると現状は寂しいが、地域の「顔」として、帝釈天周辺の賑わいを街の活力源にしていく方法を考えていきたい。 <p style="text-align: center;"><テーマ 地域における明確な骨格づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺には環7や水戸街道という大動脈があるが、地域の中は明確な骨格となる道路がない。一方、京成線の立体化や鉄道の高速度化は、地域に大きなインパクトを与えることになる。こうした中で、地域内の柴又街道は幅員が狭いことに加え、他の道路もネットワークとしての機能が整っていない。街を形づくる道路を明確に位置づけていながら、街の将来像を考えていきたい。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。	
地球温暖化への対応	・緑化の推進は、ヒートアイランドの緩和を通じてCO2の削減にもつながる。
少子高齢化による人口減少時代の到来	
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で住みよい街づくりが重要である。 ・火に強い植物があり、延焼を防ぐのに役立つ。緑化にあたってはこうした工夫を提案したい。 ・地域コミュニティが衰退しており、このことが犯罪の問題とも絡んでいる。地域の人同士が知り合わなければ、誰が不審者なのかもわからない。地域がまとまり、コミュニケーションがしっかりしていることは、防犯にもつながる。地域のコミュニケーションを高めるためにどのような施設・空間が必要になるのかといった視点も重要である。 ・世の中が殺伐としてきている。隣近所の付き合いも薄れてきている。人間性を考えた住みよいまちづくりが重要である。亀有・青戸地区は、大型商業施設の立地や「こち亀」など近年、発展してきている。その結果、訪れる人も増えている。外から見た魅力が高まった以上に、住み良さも充実していくことが重要である。 ・夏になると中青戸公園等では、花火等で遊んで騒いでいる若者がおり、近所の住民が迷惑している。また、一人暮らしの高齢者が増えている。中学校によっては生徒数が著しく少なくなっている学校がある。これらは、地域コミュニティの問題と絡んでいる。
市街地の質の向上	・地球環境問題や少子高齢化対策は、地域レベルでの取組に限界があること、水害も都の役割が大きいことを考慮すると、消去法ではあるが市街地の質の向上が、この場で話し合うテーマと考える。
その他	・町内会や自治会など既存の地域コミュニティ組織が衰退している現状において、地域活動等の新たな担い手の議論も必要になるのではないかと。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。

地球温暖化への対応	
少子高齢化による人口減少時代の到来	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、少子化にともない、学校の統廃合や小中一貫への取り組みがあると思うが、地域の拠点として学校は存続させて欲しい。 ・高齢者もいきいきと元気で暮らしていけるまちづくりをして欲しい。段差の解消や、スロープの設置、手すりの設置といったバリアフリー対策が必要である。 ・高齢者、母子世帯、外国人の増加により、地域の活動を手伝うことができる人が少なくなっている。世代のバランスがとれた地域としたい。 ・避難場所や避難路は、高齢者でも安心して利用できるように、安全でわかりやすいものとするべきである。
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全はすべての基本であり、第一に考えるべきことである。 ・当地域は、少しの雨でも冠水してしまう。近年、ゲリラ豪雨が増えており、荒川があふれるのではないかという不安がある。緊急に対応して欲しい。 ・中川が決壊した際、浸水被害があった。液状化や堤防決壊など、常に不安を抱えている。スーパー堤防整備など、こうした不安への対応を早期にしたいが、自分たちでも避難場所をしっかりと探しておくことが重要である。 ・お花茶屋駅の北側は、かつて田んぼと池であった。ここに建つアパートは老朽化しており、災害時には倒壊の恐れがある。近くの避難所へ避難することが想定されるが、とても不安がある。 ・スーパー堤防の整備を早く進めて欲しい。 ・堀切地域でも、まちづくり協議会がはじまったところである。災害に強いまちづくりをぜひ実現させていきたい。 ・かつて地域には若者も多く、水害があった時でも復興するまでの時間は短かった。現在では若者が少なくなってしまう、復興できない地域もあるはずだ。早く、水害のない街づくりをしないと不安である。 ・高齢者でも安心して避難できるよう、足元がしっかりとっていて、誘導がわかりやすい避難路が必要である。防災マップは、地域別にきめ細かく考えたい。 ・小菅地域の避難場所は四つ木にあるため、非常に遠い。もっと近くで確保できないだろうか。 ・拘置所の塀が取り払われ、地域住民は不安を抱えている。面会に来る方に対して、恐怖感が湧くことがある。いざというときに、身の危険を知らせることができるシステム（非常ボタンなど）が欲しい。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小菅地域では、すでにまちづくり協議会を立ち上げ、地区計画の運用も行っている。しかし、道路付きが悪いなどの理由から、建替えられない建物もあるようだ。地域ごとに建築ルールを考えたい。 ・小菅地域は、交通量のわりに道路幅員が広いと思う。通過交通が入らない工夫や、スピードを出しにくくする工夫が必要である。また、道路空間に植栽があるとよい。

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道（京成）により、地域の一体性が分断されている。人の流れを良くする工夫が必要である。 ・綾瀬川では、昔おたまじゃくしがとれた。今では、川沿いはホームレスの住処となっけししまい、なかなか親しみづらい。親水対策が必要である。 ・堀切菖蒲園は観光拠点として、広域から観光客を呼べるものにしたい。また、商店街の活性化につなげていきたい。 ・まちづくりは、将来のこども、孫のために。 ・現行計画の策定から約8年が経ち、公務員官舎やスーパー堤防などについて、行政とも話し合いを重ねてきたが、まちづくり条例がいまだに制定されていないというのは遅すぎるのではないか。 ・スーパー堤防の築堤に関して、これまで説明会を開催していただいたが、地域住民にとっては、全体像と同じく、スロープや取り付け部分などのディテールの情報も欲しい。
------------	--

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ

第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。

地球温暖化への対応	
少子高齢化による人口減少時代の到来	
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域の災害の危険性が高い地域であることが分かった。安全なまちづくりについて考えたい。 ・災害も地震や火災だけではない。水害についても検討する必要がある。 ・洪水ハザードマップが公表されているが、公共交通機関を使って隣接区市に避難するようになっている。本当に避難ができるか心配である。 ・水害に対してどこに避難してよいのか良く分からない。 ・防災まちづくりを進めるためには、道路の整備など住民の協力が欠かせない。しかし、なかなか理解を得られない現実がある。 ・東四つ木地区では防災まちづくりの検討を行っている。道路を広げる必要はあるが、敷地が狭く、建物を道路から引いて建替えることが難しい人が多い。 ・立石駅東側を南北に通る道路（都市計画道路補274号）を延伸し、東立石地区を経て中川をわたり、新小岩方面と結ぶ構想があるが実現していない。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・立石駅周辺では、防災対策や商業の活性化が必要と考えている。そのためには、再開発により市街地を変えていく必要がある。 ・立石駅周辺には庶民的な商店街がある。これを活かした商店街の活性化を考えたい。 ・京成押上線の連立整備や道路整備が進められている中で、まいろーど四つ木商店街の将来を考えていきたい。 ・河川に囲まれていることを活かした水上交通について考えられないか。 ・医療体制について、地域内だけでなく、広域的に検討すべきではないか。 ・文化という視点が現行計画では抜けているのではないか。
その他	<p><区民意識アンケート調査について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「改善していない」とする回答が多いことに愕然とした。区の政策が間違っていたということではないのか。 ・「改善していない」とする項目にひとつ一つ対応していく必要があるのではないか。 ・アンケートの項目は、区が行うべき施策でなく、国や都がやるべきものも含まれている。仕分けが必要なのではないか。 ・将来像も大切だが、早期に対応すべきことがたくさんある。 ・まちづくりを考える上で、既に人が生活していることを忘れてはならない。 ・まちづくりの中で負担が生じる人たちの生活再建なくして、まちづくりを語ることはできないのではないか。 ・“One for all, All for one”（ひとりみんなのために、みんなはひとりのために）を念頭に、検討を行う必要がある。 ・現行計画にある基本方針の縦系と横系の交差点に、本地域のまちづくりとして、どのような項目が入るのか、検討すると良いのではないか。

葛飾区都市計画マスタープラン地域別まちづくり勉強会のまとめ
第1回勉強会

開催日時	平成21年7月26日 午後2時～5時
開催場所	立石中学校体育館
テーマ	顔合わせ これからの街づくりにおける重要テーマ

参加メンバーの自己紹介に併せて、前半で説明した4つのテーマをもとに、当該地域において、重要となる街づくりのテーマをそれぞれ話してもらった。	
地球温暖化への対応	
少子高齢化による人口減少時代の到来	
安全・安心まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・町会では、これまで安全・安心に関して特に重点的に取り組んでいる。 ・区はこれまで区民の生命・財産を守るため、都市基盤の充実のために良くやってもらっている。 ・地震発生の危険性増大や地球温暖化による海水面の上昇などから、中川の洪水危険性が高まっている。河川沿いの道路幅をもっと広げれば、堤防の強化を図れるとともに、補助的な幹線道路として交通渋滞の緩和にも役に立つ。テラス整備など派手なことをするのではなく、こうした地道な取り組みを是非進めて欲しい。 ・中川は、満潮時において、まちの地盤よりかなり高い水面となってしまう大変不安である。なによりも中川の洪水危険性を改善してもらいたい。 ・震災時における液状化が心配である。また、火災発生時に道路が狭いため消防車が入れないところがある。 ・町会（奥戸町会）では、防犯パトロールなどにより、積極的に防犯に取り組んでいる。ただし、空き巣が多い。 ・震災時に火災が起きた場合、消火用水が心配である。中川の水を取水出来るよう配管をしておき、消火用水として使えるようにすべきである。 ・中川の問題は2つある。ひとつは大雨の際に上流からの水量の増大による堤防の決壊や溢水である。もう一つは東京湾からの潮位の上昇によるものである。この2つが重なると危ない。 ・中川においては、テラス整備に併せて杭を打ち込んで地盤を強固にしている。いずれにしても、中川の洪水危険性の回避が最大のテーマであり、これが解決しないと他のことはあまり考えられない。
市街地の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・工場が移転した後にマンションが建ち、小学校の定員が一杯になりありつつある。
その他	<p><テーマ：まちの活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少時代であることから、これからは定住する人や訪れる人が地域で奪い合いになる。中川の洪水危険性が回避出来た暁には、両岸とも葛飾区である中川の位置的特性を活かして、例えば電飾船を浮かべるとか、花火大会をするとか、中川をもっと活用してまちの活性化を図っていくことが必要である。